

教育企画 1

多職種連携教育用ゲーム” FOOD TALK”

京都大学医学部附属病院 総合臨床教育・研修センター¹⁾、慶應義塾大学看護医療学部看護学科²⁾

司会：内藤知佐子¹⁾

ファシリテーター：杉本なおみ²⁾

多職種連携教育に役立つ教育ゲーム” Food Talk” は、卒前・卒後教育を通じて使用可能な参加型アクティビティである。このゲームを通して、学習者は「多職種協働の場でどのようなコミュニケーション上の問題が生じるか」「その背景にはどのような要因が存在するのか」という点について体験的に学ぶことができる。多職種連携について理解を深め、適切に行動する力を養うには、認知面と情意面双方での学習が必要とされているが、チーム医療の疑似体験という安全な学習環境下でそのような学習成果が得られるという点がこのゲームの特色である。またこのゲームには、特殊な設備や煩雑な準備を一切必要とせず、大変簡便に実施できるという利点がある。前提となる知識や準備は一切ないので、教育・医療機関における多職種連携教育に体験参加型のアクティビティを取り入れたいとお考えの方であれば、どなたでも奮ってご参加頂きたい。(なお当日は会場の収容定員人数まで先着順で参加を受け付ける。また、このアクティビティは、2011年6月の当学会「コミュニケーション学セミナー」で実演したものと同内容である)

教育企画 2

eラーニング・eポートフォリオを用いた教育実践ショーケース

自治医科大学 医学部情報センター¹⁾、東京医科大学 医学教育学分野²⁾、北里大学看護部³⁾

ファシリテーター：浅田義和¹⁾、ブルーヘルマンズ²⁾

プレゼンター：八木（佐伯）街子³⁾、熊谷 奈穂³⁾

概要：ICT（Information and Communication Technology）の発達にともない、eラーニングやeポートフォリオを活用した授業や研修の実践事例も年々増加しています。既にご自身で活用されている方もいることでしょう。一方でその実践を行うにあたって、効果的なコンテンツ設計や活用方法に関して、課題を抱えている方々も多いかと思えます。

本セッションでは、eラーニング（Moodle）およびeポートフォリオ（Mahara）の活用事例紹介を通じて、eラーニング・eポートフォリオの実践に関する意見交換を行います。90分という短い時間ではありますが、「より良い活用方法は？」 「実際に利用していて困ったことは？」などについて、みなさまの実践のヒントとなれば幸いです。

内容：

- 1) Moodle の活用事例紹介：看護師の多重課題研修における事前学習教材（20分程度）
- 2) Mahara の活用事例紹介：医学科の臨床実習におけるeポートフォリオの様々な使い方と工夫（20分程度）
- 3) 実際に教材を触ってみる（20分程度）
- 4) Moodle での評価・効果分析（Learning Analytics）の事例紹介（10分程度）
- 5) 全体ディスカッション、意見交換（残りの時間）

補足：

- ・全体の時間・進捗によっては、「評価・効果分析」の部分を割愛します。その

場合も、参加者の方々には閲覧可能な資料を配付できるよう、検討しています。

・当日、「教材に触ってみる」時間を設けております。スマートフォンからの利用も可能ですが、可能であれば Wi-Fi に接続できる PC やタブレット等をご準備いただければと思います。

教育企画 3

分野別認証評価で求められる業務とは？

東京大学大学院医学系研究科医学教育国際研究センター

ファシリテーター：大西弘高

2014 年度より、医学部教育に関し、分野別認証評価のトライアルが始まり、その対応に迫られる医学部が増えている。医学部の分野別認証評価は、欧米だけでなく、アジアの多くの国々ですでに制度化されており、わが国での導入はかなり遅れたと言える。

認証評価は、教育によほどの問題がなければ、全体としていきなり不合格になることはない。ただ、認証は例えば米国で最大 8 年という期間しか得られない。また、基本的に継続的な改善という考え方を基に構築されているため、一旦大きな改革をしても、それが継続できないと次の認証評価の際に評価を下げてしまう。このような大きな視点に立ち、認証評価を行う際に、どのような業務を行うべきかについて具体的に述べてみたい。

教育企画4

MSW を育てるしくみ

調整中

教育企画5

Sim Club シミュレーション医療教育のすべて ～教材パッケージとノウハウ～

東京慈恵会医科大学¹⁾、高知県立大学看護学部²⁾、岡山大学病院 薬剤部 副薬剤部長³⁾、前・岡山大学医療教育統合開発センター⁴⁾、東京医科大学病院⁵⁾、京都大学医学部附属病院 総合臨床教育・研修センター⁶⁾

ファシリテーター：武田聡¹⁾、大川 宣容²⁾

プレゼンター：名和秀起³⁾、香西佳美⁴⁾、冷水育⁵⁾、内藤知佐子⁶⁾

シミュレーション教育を効果的に行うには、各施設の教育・研修のカリキュラムに正式に導入することが重要となる。本邦における医療者を対象としたシミュレーション教育は、近年、急速に普及し、多くの施設でシミュレーション教育が行われている。また、各地でシミュレーションセンターを開設する施設も増えている。今後は、この教育を系統的にカリキュラムに導入していくために、単発のトレーニングのみではなく、アウトカムを明確に示した、教材パッケージを作成していかなければならないだろう。本教育企画5では、卒前・卒後教育で活躍されている先生がたから教材パッケージを紹介していただき、教材パッケージの可能性や課題などをディスカッションしていく。